

平成28年4月

聴覚センターを開設しました

耳鼻咽喉科
主任診療科長
言語聴覚士

新田 清一
鈴木 大介



聴覚センターのスタッフ

【耳鼻咽喉科医・言語聴覚士・臨床検査技師・看護師・事務員】

はじめに

2016年4月1日より、当院耳鼻咽喉科外来内に設立された聴覚センターが稼働いたしました。聴覚センターでは、耳鼻咽喉科医と耳鼻咽喉科専属の言語聴覚士が中心となって、専門的な聴覚診療（補聴器・人工内耳・小児難聴診療）にあたっております。

聴覚センターとは

聴覚センターは、「聞こえが悪くて困っている全ての患者さまに対して、専門的かつ質の高い医療を提供する」ことを目的として設立されました。当院耳鼻咽喉科では2006年4月に聴覚センターの前身となる「言語聴覚外来」を開設して聴覚診療に携わってきました。開設当初は1日10例程度の小規模な外来でしたが、開設から10年が経ち現在では全

補聴器診療について

聴覚センター（写真1：聴覚センター入口）では専属の言語聴覚士を中心として、補聴器診療を月曜日から金曜日まで毎日行っており、聴覚センターの中で最も患者数の多い外来となっております。補聴器診療は難聴の方のみならず、耳鳴治療を目的とした方も全国から来院されています。

効果的な補聴器診療のためには、適切な聴覚リハビリテーション（補聴器の調整を含む）が重要です。当科では最初の3ヶ月間は週1回の頻度で来院していただき、聴覚リハビリテーションに取り組んでいます。近年の患者数の急増に伴い、行える診察や検査の数の限界が来ていましたが、今回の聴覚センター開設に伴い専用の診察室を1室から4室、検査室を1室から3室へ増設し、より充実した診療が可能となりました（写真2：診察室、写真3：検査室）。

また当科では補聴器が初めての方でも気軽に試すことができるように、最初の3ヶ月間は補聴器を貸し出して、患者さまの納得がいくまで

何回でも調整を行っています。そして効果的な補聴器を作り上げるために必要不可欠な専門設備も充実しています。中でも補聴器周波数特性装置（補聴器の状態を客観的に把握するための器械）や補聴器適合検査（補聴器を装着した状態で行う効果測定）の設備を3台ずつ所有しており、患者さまにとって最適な補聴器活用に役立てております。

また聴覚センターでは国内に流通している全ての補聴器メーカーに対応できる体制で診療を行っています。一販売店や他の医療機関で補聴器を購入したけど上手くいかなかったという方が、所有されている補聴器を持ち込んでいただくことも可能ですので、お気軽に受診してください。

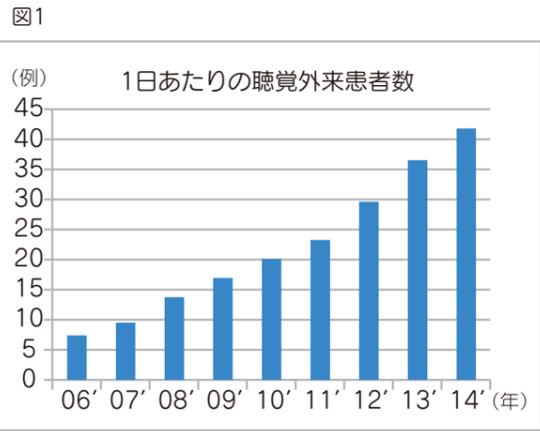


図1



図2

非常に多くの患者さまが来院される外来となっております。



写真3:検査室



写真2:診察室



写真1:聴覚センター入口





●プレイルーム内検査室



●遊びを通して行うハビリテーション専用のプレイルーム



●補聴器周波数特性装置



●補聴器の調整機器を使用して調整を行っている様子

耳の構造と人工内耳の仕組み



- 1 スピーチプロセッサ※1内の小型マイクが音を拾い、電気信号に変換します。
- 2 音を分析し、特殊なデジタル信号に変換します。
- 3 この特殊なデジタル信号が送信コイルへ送られ、皮膚を通してインプラント※2へと送信されます。
- 4 インプラントは信号を刺激パルスに変換して、蝸牛内の電極へ送ります。
- 5 刺激は聴神経から脳に伝わります。脳が刺激を音として解釈します。

(出典：メドエルジャパン株式会社)

人工内耳診療について

人工内耳は、補聴器を装着しても効果が十分でない重い難聴の患者さまに対して行う高度な専門医療です。聴覚センターではお子さまから大人の方まで全ての年代の患者さまに対して、人工内耳を埋め込む手術や調整、その後のハビリテーション※まで一貫して行っています。近年では、人工内耳は様々な形状のものが登場しており、手術を行う際に患者さまの意向で使用する機器を選択していただくことができます。

人工内耳診療では、手術後の調整とハビリテーションが極めて重要であり、人工内耳の効果を大きく左右します。当センターでは人工内耳の調整装置を複数台整備し、なるべく頻回に通院していただける体制を整えております。

※ハビリテーションとは、先天性もしくは幼少時からの障害児を対象とするリハビリテーションのJALPA。

プレイルームには小児専用の検査室(写真：プレイルーム内検査室)と補聴器・人工内耳の調整機器があり、より質の高い補聴器・人工内耳調整を目指しています。今後はこのプレイルームを用いて両親講座や情報交換会なども積極的に行っていく予定です。

難聴の専門医療を受けたい方、補聴器や人工内耳を希望する方は是非聴覚センターを受診してみてください。スタッフ一同、お待ちしております。



小児難聴診療について

お子さまの言語発達においては、ことばの入り口となる「聞く」過程がとて重要でです。この「聞く」領域を担う聴覚センターでは、難聴の診断から補聴器や人工内耳による聴覚活用やハビリテーションまで総合的な小児難聴診療を行っています。

難聴の診断や補聴器調整の際には正確な聴力評価は非常に重要であり、お子さまの言語発達を大きく左右します。そのため当センターでは小児用の聴力検査機器を有し、新しい聴力検査である視覚強化式聴力検査(VRA)や聴性定常反応聴力検査(ASSR)も完備しております。

またお子さまのハビリテーションは机上で行う訓練だけでなく、遊びを通して行うハビリテーションもあります。そのため当センターでは広々とした専用のプレイルームを完備し、お子さまがのびのびとハビリテーションを受けることができるようにしました(写真：プレイルーム)。

筆者紹介



耳鼻咽喉科
主任診療科長
聴覚センター長
新田 清一 医師

慶應義塾大学 医学部卒業
《専門医療》
耳鼻咽喉科一般、耳科学、聴覚医学

《学会専門医等》
日本耳鼻咽喉科学会専門医
補聴器適合判定医師、補聴器相談医
日本頭頸部外科学会、頭頸部がん暫定指導医
慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科客員講師
日本耳鼻咽喉科学会栃木県地方部会
補聴器キーパーソン
同学会 福祉医療(成人・老年)委員長
同学会 学術委員
日本耳鼻咽喉科学会 広報委員会委員
栃木県教育支援委員会委員
栃木県保健福祉部非常勤嘱託医



言語聴覚士
鈴木 大介

2004年 国際医療福祉大学 保健学部言語聴覚学科 卒業
同年 国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究所 入学
2006年 国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究所 修了
同年 済生会宇都宮病院 入職